

三重県入札等監視委員会 審議概要（平成27年度 第4回）

開催日及び場所	平成28年2月22日(月)14:00～16:30 アスト津 4階 会議室1	
出席委員	委員長 林 拙郎 副委員長 福島 礼子 委員 石黒 覚 委員 岩田 広子 委員 長谷部 拓哉	委員5名中5名出席
審議対象期間	平成27年10月1日から平成27年12月31日	
抽出案件	総件数 8件	(備考)
一般競争入札	6件	
指名競争入札	2件	
随意契約	0件	
委員からの意見・質問、それらに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申または勧告の内容	特になし	

入札等監視委員会 平成27年度 第4回定例会 (平成28年2月22日)

意見・質問

回答

入札・契約事案の審議について

工事名 主要地方道大台宮川線(多度橋)橋梁耐震補強工事〔松阪建設事務所〕

- ・低入札調査資料の入札した工事が施工できる理由書の確認はどのように行うのか。
- ・どのようなところで経費削減されているのか。
- ・下請予定業者と実際に契約を締結したかどうかは確認しているか。
- ・下請予定業者はどのようなランクか。入札に参加できるのか。
- ・一般管理費等が設計金額の30%以上であれば妥当であるという判断なのか。
- ・橋梁耐震補強工事の工法は安価な工法を選択するのか。

- ・県の積算と業者の積算を対比させて、その理由が妥当かどうかを確認している。差があるものについてはその内容を確認し施工可能かどうかを確認している。
- ・同種工事の施工実績があり現場の施工管理に熟練している技術者がいること、下請予定業者が工場等を自社所有し、過去の施工実績も多いことで経費が削減できるということである。
- ・確認している。
- ・鋼構造物を専門にしている業者である。鋼構造物については、格付ランクはなく点数で参加要件を設定しているが、当該入札には参加はできる業者である。
- ・そういう判断をしている。
- ・安価な工法を選択するというわけではなく、その橋に適した工法を選択している。

工事名 二級水系沓川水系沓川砂防設備災害復旧工事(H27国災第12号)〔尾鷲建設事務所〕
 工事名 二級河川古川(右岸)河川災害復旧工事(H27国災第13号、国災第19号)〔尾鷲建設事務所〕
 工事名 二級河川古川(左右岸)河川災害復旧工事(H27国災第14号)〔尾鷲建設事務所〕
 工事名 その他水系梶賀川水系梶賀川(左右岸)砂防設備災害復旧工事(H27国災第16号)〔尾鷲建設事務所〕

- ・談合情報があったことは入札参加者にはいつ伝えるのか。
- ・入札参加者11者すべてが建設業協会に加入しているのか。逆に協会に加入しているが今回参加しなかったところはあるか。
- ・今まで事情聴取によって談合が疑わしいとした案件は結構あるのか。
- ・事情聴取ではなかなか実際のところがわからないという手法なのではないか。
- ・談合する側としてはつじつまを合わせてくるので、その辺りを確認するというのは難しい作業かと思うが、その辺りはどうか。
- ・情報提供者に対して、こちらから問い合わせるということはないのか。

- ・今回の談合情報は事務所職員が関与しているという情報もあったため、事務所にも開札直前まで伝えていない。入札参加者には開札後に伝えて事情聴取を依頼する。
- ・全業者が協会に加入している。参加資格があつて協会に加入している業者は全部参加している。
- ・事情聴取によって疑わしいとした案件はない。
- ・今回の情報に業者が集まって話し合いをした具体的な日付があつたので、これを確認することが目的であつた。実際、集まった事実はなかった。
- ・工事費内訳書は特に業者それぞれ積算されて独自の価格で入札されている。不自然な歩切りしていることもなかった。ヒアリングの中でも計算方法についてもきちんと説明していただいた。
- ・こちらから問い合わせようと連絡先を聞いたが教えられないとのことであつた。

入札等監視委員会 平成27年度 第4回定例会 (平成28年2月22日)

意見・質問	回答
<ul style="list-style-type: none"> ・工事費内訳書は開札後に依頼して提出してもらうのか。 ・建設業協会は事務所と何か接点があるのか。 ・談合情報を確認していく作業は限界があるのではないかと思うがどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入札書を提出する際に工事費内訳書を添付することになっている。通常は落札候補者になった者のみ確認するようになっているが、談合調査に入ったため、すべての業者の工事費内訳書を確認した。 ・入札制度で新しい取組をする際に、協会を通じて情報を流していただくということはある。 ・情報提供者から聞いた情報の範囲内で確認することしかできず、情報自体も核心の情報が少なく証拠もないので限界があると思う。
<p>工事名 北勢沿岸流域下水道(北部処理区)北部浄化センター中央監視制御設備改築工事 〔北勢流域下水道事務所〕</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・電気設備の取り換えは専門的なものであるため、メーカーによって仕様が大きく変わったり、取り換え時に支障が生じたりするのではないかと思うが、こういう場合は随意契約で行うということは検討しないのか。 ・次の電気設備の取り換え時と同じく入札で考えているのか。 ・評価値が一番高い業者が落札していないのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10億円という大規模な工事であるため、基本的には随意契約ということは考えなかった。ほとんどの設備を取り換えることで、どの業者でもとれるような仕様を考えて設計し、競争性の働く一般競争を選択した。 ・そうです。競争性が働くように発注していきたい。 ・評価値が一番高かった業者は、入札額と入札時に提出する工事費内訳書の額が一致していなかったことから無効とした。
<p>工事名 一般国道42号(伊勢二見鳥羽ライン)法面对策工事(その1)〔伊勢建設事務所〕 工事名 一般国道42号(伊勢二見鳥羽ライン)法面对策工事(その2)〔伊勢建設事務所〕</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・地理的要件を満たす148者から6者を選定した理由はなにか。 ・2件の工事で同じ6者を選定した理由はなにか。 ・指名競争入札にした理由はなにか。 ・サミットの開催がなかったとしても指名競争入札となるのか。 ・法面技術協会というのは、建設事務所となにか接点みたいなのはあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施工実績の多いところ、総合評定値の高いところ、その辺りを総合的に判断して、この業者であれば確実に施工してもらえらうところを選定した。 ・総合評定値の点数がこの6者が飛びぬけており、特に優れていたため、2件の工事とも同様の業者を選定した。 ・伊勢志摩サミットの開催に向けて、伊勢二見鳥羽ラインは重要な路線で、この開催までに早く復旧しなければならないということで、三重県発注方法の取扱い1(3)イ①緊急性を要する工事にあたるとして指名競争入札で実施した。 ・工事の期限が決まっておらず、県民生活に重大な支障をきたさないというものであれば一般競争入札である場合もあるが、緊急を要する場合は指名競争入札である。観光業の関係で早く復旧してほしいという要望もある。 ・ないです。

入札等監視委員会 平成27年度 第4回定例会（平成28年2月22日）

意見・質問	回答
<ul style="list-style-type: none"> ・法面技術協会員は津から南の業者しかいないが何か理由があるのか。 ・発注段階でこの6者すべてが法面技術協会に入っているということは認識されていたのか。 ・事情聴取の中で見積依頼先の業者名が同じになっているが、不自然ではないのか。 ・工事費内訳書でどういう場合は談合が疑わしいのか。 ・事情聴取の質問内容は談合対応マニュアルに基づいて聴いているのか。 ・マニュアル以外の聴き方をしてはいけないのか。 ・マニュアルは全国的に県ごとに違ってくるものなのか。 ・しっかりした談合情報でない限りは発覚しにくいものなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法面工事を専門でしている業者は、北には1つぐらいしかない。 ・それは認識していた。法面に特化した業者で構成されている協会であるので、法面の実績は多い。 ・当該工事は一般的なアンカーになっていて、この地域で施工する場合には見積が出てきてもおかしくない有名な大手のアンカー会社である。 ・比率が同じである、全く同じ額が入っているなど、類似性があるというのは疑わしいという判断材料になる。請負額が違うのに率を比べてみると特徴の合う場合があったりすると疑われることがある。 ・基本的にはマニュアルにそって聴いている。 ・そういうことではない。 ・違うと思う。各県それぞれで作成している。 ・情報よっての調査になるので、どうしても談合の疑いが払拭できなければ中止ということになる。それを公正取引委員会へ報告させていただく。県ができるのは、続行するか、中止するかどちらかである。
<p>その他</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・談合対応マニュアルの他県の状況についてを調査し、次回以降の委員会に報告することが委員から求められた。 ・次回、平成28年度第1回入札等監視委員会の開催日は、平成28年6月27日(月)の予定とする。 	